

初夏のグリフィン ～
RF部隊編

neonn

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

久々の任務から帰ってきた5人。

PPK 「ゴスロリって、暑いわねえ…（プシユ）」

WA2000 「ドレスも地味に暑っ…」

M950A 「断髪しようかな…熱球2コ（ツインテ）はやばい…」

スプリングフィールド 「ゼエ…ゼエ…夏なのに…サンタコスとか…」

Five seven 「暑い（ノースリーブでミニスカだから割と涼しいだなんて

言えない）」

目次

R F 部隊 (P P K / M 9 5 0 A /

F i v e | s e v e n / スプリン

グファイルド / W A 2 0 0 0) らは、

数か月ぶりの任務から帰投した模様

1

R F 部隊 (P P K / M 9 5 0 A / F i v e | s
 e v e n / スプリングフィールド / W A 2 0 0
 0) らは、数か月ぶりの任務から帰投した模様

P P K 「指、揮官〜」

指揮官 「あい？」

「あ、づい〜」 W A 2 0 0 0 「暑う〜い！」 M 9 5 0 A 「つつ〜」 スプリングフィールド
 「ハア…ハア…」 F i v e | s e v e n 「……。」

指揮官 「じゃ付ける？」

頷く5人。

指揮官 「と、24°C…」

「あ、ー」

指揮官 「P P K、さあ」

「ん、ー？」

指揮官 「…涼しい？」

「んー」

PPKは最近こんな調子である。罵倒も無い。

WA2000「もつと下げてくってか脱いでいい？」

指揮官「WAさん？大丈夫？」

「別に良いじゃない！暑いので〜！」

指揮官「ガン見するけど良…」

「は？」

指揮官「はい」

汗で脱ぎにくそうになっているドレスを、顔を——恥ずかしさではなく力みから——真つ赤にしながらか脱いでるWAさん

出会った頃はツンデレだった気がする。あれは幻だったのだろうか。

M950A「指揮官、髪切って」

指揮官「別に良いけど。ハサミある？指揮官はそんな危ないモノ持ってないよ」

「食堂とかカリーナの所に多分あるんじゃない？」

指揮官「カリーナの所ってどこだよ」

「よろしくね」

指揮官は適当に切れ味のいいハサミを持って来たら、寝ていた。

指揮官「ええ」

めっちゃ無防備。猫かよ。

「むにゃむにゃ…」

スプリングフィールド「あー涼しいですー」

指揮官「いやータイツは暑いよなあ」

「……一応、私は水着あるのですし着替えてもよろしいですか？」

指揮官「サンタコス可愛いじゃん」

「急に言われると照れますわね……／＼／＼」

指揮官「そうか！」

「そうか！じゃないですよ……もう……」

指揮官「そのうちドレススキン着せてあげるから、それまで耐えてね」

「え、ええ〜」

スプリングフィールドはおだてれば毎回懲りずにまんざらでもない顔をする。可愛
い。

「うふふ、うふふふふふふふふふふふふふふ」

たまにこうして怖い笑い方をする。ヤンデレっぽくて可愛い。

Five-seven 「私、逆に寒いんだけど」

指揮官 「毛布あげる」

「どうも」

指揮官 「外暑かった？」

「普通」

指揮官 「そっかあ」

「(指揮官……♡)」

指揮官 「(腹減ったなあ)」

「そういえば、民間のラーメン屋さん出来たんだって。ここからバスで15分くらいの所なんだけど」

指揮官 「外食かあ……」

「……♪ (キラキラ)」

指揮官 「じゃ、じゃあ」

「行きましょ」

指揮官「ちよつ…」

Five—sevenは凄い積極的である。たまに襲われることもある。しかし……。

スプリングフィールド「……ずうつと、見てましたわよ……」

M950Aは無言でハサミを持っている。

WA2000は無言で抱きついてきた。ん？そういえばWAさん、今は全裸では……。

PPK「あくらあ？あらら？Five—sevenさん？指揮官と二人でどこに行こうとしているのかしら？回答次第では、分かっているわよねえ？」

Five—seven「別に、すぐ戻って来るわよ。ね？指揮官♡」

指揮官「……今回は、止めようか」

Five—seven「……っ！そ、そう！じゃあ良いわ！私一人で！行つてきます！」

指揮官「ちよつと待て、それなら皆で行かないか」

Five—seven「は？何で……」

PPK「……うふふつ！それ良いわねえ！アハハハハ！」

WA2000は、じつと抱き着いたまま上目遣いで見てくる。空腹らしい。慣れれば分かる。

M950A「ちようどお昼だし、賛成！」

スプリングフィールド「仕方ないわね……皆さんに免じて、Five—sevenの今回の……」

指揮官「はい！じゃーもうバス来ますから！行きましょう！」

スプリングフィールド「指揮官!?最後まで話聞いてくれませんか？ねえ！」

Five—seven「つるつさいのよ年増」

スプリングフィールド「……はい？」

WA2000「ちよつとやめなさいよ、アンタ達！」

PPK「その恰好で言われてもねえ？」

M950A「やい！清楚ビッチ」

WA2000「なっ、ち、違うんだから！指揮官、ちよつと、違うの！待って！」

指揮官は内心ほつとほつと、かましい5人を引き連れて歩いて行くのだった。

カリーナ「残念ですけど、外食は経費から落ちませんので自腹でお願いします」

指揮官「あれ？そうだっけ」

カリーナ「はい」

指揮官「前、なんか俺カリーナと外食行ったときは経費で……」

カリーナ「^^」

指揮官「落ちた気がしたただけだったか。勘違いだったな」

カリーナ「それでは、ご用件は以上でしようか？」

指揮官「なんかよそよそしくない？」

カリーナ「え？そですか？可愛い戦術人形5体と仲良くお食事したことなんか、全然根に持ってませんけど？好感度、全然下がってませんから安心してくださいな（棒読み）」

指揮官「あー、分かった、分かったから、カリーナも今度二人でその店行こうな！」

カリーナ「やったあ！指揮官様！大好きい！」

指揮官「現金」